



校長通信

尾花沢を背負って立つ学校～自分たちで創り上げるシン尾花沢中～

輝け！シン尾花沢中

長根の山の ふもとはら 遠いゆかりの おもだかの

第148号

令和7年

12月18日

尾中生と同窓生が「幸せ」について語り合った日④～おもだか塾～

今号も「おもだか塾」の第1部における尾中生と同窓生の感想を紹介します。

■尾中生の感想

梶川碧心さん（1年）：「大人になってから後悔しないように今頑張るしかない」の言葉が印象に残りました。日々の積み重ねが大切だと学ばせていただきました。

松原瑚子さん（2年）：「幸せはたくさんのことからできている、ことが分かりました。親がいることで今生活できているので、しっかり感謝して生活していきたい」と思いました。

富樫颯介さん（3年）：「自分らしさを忘れずに素直に生きること」が大切だと分かりました。



■同窓生の感想

○信頼、達成、成長、友情、日常が幸せを感じる時だと生徒さん。みんな素直で、とてもいい顔で話してくれました。私も、日常の中ですべてが詰まっているし、普通に日常を過ごせることが幸せだと思っています。生徒さんたちの日常が、どうか小さな幸せがたくさん詰まっていて、その幸せをしっかりと受け止めながら、挑戦し、達成し、信頼関係を築き、大人になったときに、四季をしっかり感じ取ることができる尾花沢に帰ってきたり、大切に思ってくれたりできる大人に成長してくれることを期待しています。

○多様性の時代、いろいろな選択肢があり大変だとは思いますが、自分の意思で選び、たとえ意思とは違う選択肢に変わったとしても、自分の経験値になると思います。また、大きな幸せだけでなく、小さな幸せの積み重ねもいいものです。

○ある生徒が「友達と幸せについて話などしたことがない。とてもいい機会だった」と話してくれました。尾花沢でもどこでも、今住んでいる場所、生まれた土地を愛せる幸せがとても大切だと思います。

○中学生の皆さんにはたくさん学んでいろいろなものを見て知識を持ち、尾花沢に戻ってきて良し、戻らなくてもどこかで尾花沢に貢献できるような大人になってほしいです。

○中学生はみんな発言力があり感心しました。また、第一印象で全員爽やかで生き生きとしていたことに驚きました。これからの中学生にご期待しています。さまざまなことに挑戦していただき、尾花沢の未来につないでいってもらいたいです。

次号も、I部における尾中生と同窓生の感想を紹介します。



【文責：校長 工藤雅史】

遠藤ひまりさん（1年）：今後の尾中生に期待することとして「自分が行動したことを見せてほしくない」とおっしゃっていて、とても心に残りました。

三宅彩夏さん（2年）：「約束をしっかりと守ること」「守れない約束はしないこと」「相手に対しても自分に対しても誠実に対応すること」が大切であると教えていただきました。

三浦海輝さん（3年）：「幸せは探すものではなく、巡り合ったり感じたりすること」と教えていただき、幸せは身近に潜んでいるなと思いました。小さな幸せを活力に日々の生活も頑張りたいと思います。

○いろいろと心身共に変化のある年頃だが、自分と向き合い、良いことも悪いことも正面からぶつかってほしい。ぶつかるのが大変ならば、避けながらのらりくらりやりすごすのも良いと思います。一番は楽しいと思うことも全力で向かっていってほしい。そうすれば、尾花沢はこれからもっと花咲くと思いました。中学生の声を聞くことができてたいへんうれしかったです。ありがとうございました。

○若い子たちと幸せについて語り合える機会があるなんて思いませんでした。みんながしっかり自分の意見を持ち、人前でそのことを言葉にできることは、これから大切な力ですので、このまま続けてほしいです。また、3年生のしっかりとした態度やリーダー力、フォローアップを感じました。後輩のいい見本で感心したところです。全校生、力を合わせていい尾中にしてください。

○尾花沢中は少子化の影響もあり、生徒数はだいぶ減りましたが、夢をたくさん持つて学校生活を送ってもらいたいと思います。逆に、子供たちが今の尾花沢市をどう思っているのか、知ることができ、とても貴重な機会となりました。本日、自分なりの考えを出させていただきましたが、ほんの少しでも子供たちが今後の幸せを考えるきっかけになればと思います。夢に向かってたくさんチャレンジしてください!!

○私たちの時代よりも自分のことを良く考えているような雰囲気を感じました。また、学年が異なっていても、お互いにフォローしながら話し合いをしている様子が素敵だと思いました。自分が中学生だったときのことを興味深く聞いてくれてうれしかったです。母校のますますの発展を祈っています。

○幸せについて話をしたときに、3年生の生徒から「今が幸せなので中学校を卒業したくなかった」という言葉があったことが印象的でした。他の生徒の様子からも楽しく充実した学校生活を送っていることが伝わってきました。地域に開くということはエネルギーが必要だと思いますが、その中で地域と教師だけではなく、地域と生徒が直接議論する機会は貴重なものだと思います。そんな中で、大人に自分の考え方や思いをぶつける生徒の姿がとてもまぶしく見えました。改めて貴重な機会をありがとうございました。